

農業高等学校生意見文コンクールは、農業や農業関連産業の後継者・従事者として、また、農業指導者や農業に対するより良い理解者として、今後の日本農業を持続、発展させることが期待される高校生が農業および農業を取り巻く様々な環境に対する思いを意見文にまとめることにより、農業に対する意識を高め、農業高校等での生活や学習を一層充実させることを期待するものです。これからも日本農業教育学会主催の取り組みとして飛躍させたいと考えています。

今回で 18 回を迎えました本コンクールには、全国の日本学校農業クラブ (FFJ) に加盟している農業高校および農業関連学科に所属する FFJ 会員の高校生から応募いただきました。今年度は 72 件の応募がありました。応募された意見文のいずれも、それぞれの農業体験学習、実践活動、研究開発等を通して、農や食への興味・関心、地域貢献や私たちの暮らし等への取り組み、将来の夢等について、高校生らしく自分の気持ちを素直に表現していました。また、自ら、あるいは仲間たちと一緒に活動し、その成果を明確に取りまとめた、意気込みが感じられる意見文もありました。これらの意見文は、課題と内容の整合性、文章の論理性、説得力、さらには農業高校生としての自覚と内容の適性、意見の妥当性や建設性、将来への熱意、共同研究等ではその取り組みの中での役割分担、寄与度、仲間への感謝等、幅広い観点から厳正な審査が行われた結果、今回は最優秀賞が 3 編、優秀賞が 3 編といたしました。また昨年を引き続いて、最優秀賞や優秀賞に次ぐ内容のある作品 4 編に審査員特別賞を授与することにしました。

最優秀賞に選ばれた鈴木 竣介くんの意見文は、「伊勢いも産業復興と新しいビジネスモデルの確立を目指して」というテーマで、強い粘りと濃いうま味のある伝統野菜、「伊勢いも」に着目し、クラウドファンディングの資金による密閉型栽培施設下での「伊勢いも」の大量増殖技術の開発を行うとともに、ビジネス化を考えているところが興味深いです。将来、「伊勢いも」農家を目指したいとのこと、「伊勢いも」で地域を大いに活性化させてください。次の最優秀賞、埋橋 来瞳さんの意見文「上農 p e r f u m e ～地域の環境をまもる～」は、地域の樹木約 200 種の中から有望な樹木を選抜し、独自の香水作りを試みている非常に興味深い作品です。現在、商品化を図っているとのこと、ぜひ実現してください。また選抜された樹木の中には抗菌、抗ウイルス作用を持つものがありますので、空気浄化が図れる香水の開発にも挑戦してみてください。もう一つの最優秀賞、下山 蓮くんの「造園士を目指して」は、造園技能士 1 級を持たれている先生とのふれあいが愉快地描かれており、次第に造園に興味・関心がわいてくる様相が伺える非常に興味深い意見文です。将来、造園技能士 1 級を取得し、造園の奥深さや面白さを指導できる人になっていただきたいと願っています。

優秀賞に選出された井出 朋花さんの意見文「高校生が地域活性化のためにできること」は、静岡の茶や地元の農産物を用いたお茶漬けカフェを作って地域を活性化させるという興味深い取り組みを行っている作品です。これからも茶を利用した新しい商品開発に挑戦されることを期待しています。優秀賞、菊池 月菜さんの作品「牛とともに」は、畜産農家へのインターンシップを通して、子牛の出産に立ち会ったりしていく中で、畜産業に興味を持ち始めていく意見文で興味深

かったです。ぜひ酪農の魅力を伝える指導者として、自身の目標に向かって挑戦してください。次の優秀賞、長岡 実李さんの意見文「私の夢は壱岐の「牛飼いさん」」は、大都会東京から祖父母が住む壱岐で牛飼いに興味・関心を持ち、牛飼いになりたいという非常に熱い気持ちが伝わる意見文です。「壱岐牛を守り、育て、地域を盛り上げる、そして都会に出た人たちが少しでも戻りたい、暮らしたい、そう思うような島になる」という夢をかなえられるよう頑張ってください。

審査員特別賞に選出された大津 俊介くんの意見文「日本一のイチゴ農家を目指して」は、家族の観光イチゴ栽培を手伝って、将来のイチゴ農家のあり方を考えながら、学校ではトマトの水耕栽培技術を熱心に学んでおり、熱意が感じられる作品です。今後、大学に進学し、日本一のイチゴ農家になりたいとのこと大いに期待しています。審査員特別賞、南田 怜美さんの意見文「『地域を守るリーダー』を目指して」は、鳥獣被害の問題を熱心に取り組み、将来の目標が良く分かるとともに、協力者への配慮も考えている作品でした。将来、地域を守るリーダーとして活躍されることを願っています。次の審査員特別賞、大竹 葉津己さんの「日本の「家族農業」を考える」という意見文は、家族農業の重要性を問う興味深い意見文です。将来、農業を継ぐことはないにしても、これからも家族農業のあり方を考え続けてください。最後の審査員特別賞、月間ゆきなさんの意見文「シロバナタンポポと咲かせる新しい農業の未来」は、雑草として駆除されているわが国の在来種であるシロバナタンポポの保全とその活用、タンポポコーヒーを提案している興味深い意見文です。今後のシロバナタンポポの栽培方法やタンポポコーヒーの商品化を楽しみにしています。

今回応募された意見文 72 編全てを審査の対象にいたしました。今大会では、一個人による意見文において、仲間たちと一緒に取り組んだ調査・研究でありながら、仲間への感謝の念や謝辞が全く記載されていないという作品が非常に少なくなっていました。今後とも、限られた紙面でも研究仲間への感謝の念や謝辞をしっかりと記述することを心がけてください。また、連名や共同研究による作品の場合は役割分担や寄与度がより明瞭にできるよう工夫してください。

本意見文コンクールでは、今後も「高校生自らが考え、行動し、取りまとめる」という重要な基準を踏まえながら、仲間たちとの取り組みを一個人として発表するときは仲間等への感謝の念や謝辞を、さらには連名による作品の場合には仲間等への感謝の念や謝辞は不要でも各自の役割分担や寄与度等を文中に必ず記載するよう募集要項で示していきたいと考えています。

次回もさらに多くの皆さんの応募をお待ちしております。最後に、本意見文コンクールの推進にあたり、ご協力をいただきました皆様に心より御礼申し上げます。